

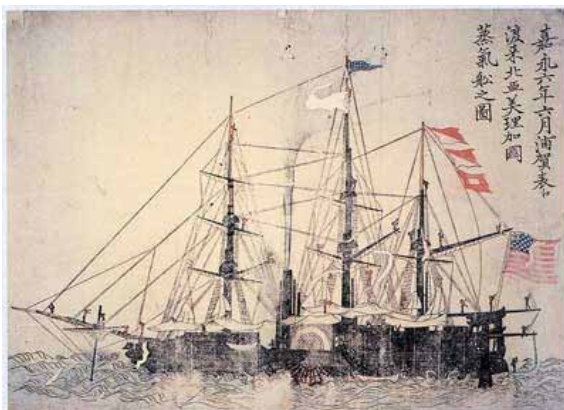
町並み散策ばらり in 神奈川

開国の町 横須賀 浦賀

・・・近代への変革を求めて・・・



約8kmの行程、海の風を感じながらのんびり歩いて下さい。



黒船艦隊



ペリー提督一行久里浜に上陸



① ペリー上陸記念碑／

日本の開国を求めて来航したアメリカ海軍提督ペリーが寛永6年(1853)に久里浜海岸に上陸したことを記念して立てられた上陸記念碑。碑文の「北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑」は伊藤博文の筆によるもの。公園内にはペリー記念館がある。



② 燈明堂／

浦賀港入口の岬にある和式灯台燈明堂は慶安元年(1648)から明治5年(1872)まで、行き交う船の安全を見守り続けた。石垣の土台の上に建てられた建物で、階上には銅製の燈明皿が置かれ、その光は約7km先からも見えた。平成元年、残存していた石垣の上に復元。



③ 川間町内会館の「漆喰鰻絵彫刻」／

黒潮の流れとともに伝わった漁業の町の漆喰文化。幕末から明治にかけて、浦賀にも漆喰壁を塗る左官職人が数多く暮らしていたとされる。漆喰の見事な作品は、現在でも多くの神社等で見ることができる。



④ 愛宕山公園／

明治24年(1891)に開園した横須賀市で一番古い公園。公園内には幕末ペリー来航の際、応接にあたった中島三郎助の招魂碑と咸臨丸出航の碑と与謝野鉄幹・晶子夫妻の歌碑がある。公園からは浦賀のまち全体が見渡せる。



⑤ 西浦賀の町並み／

海岸沿いの道路から一本入った通りに古い町並みが残っている。江戸時代中期、浦賀奉行所と塩の商人によって基盤が作られ、瀟洒なデザインの商店や石蔵が見られる。



⑥ 浦賀の渡船／

浦賀の東と西を結ぶ渡船。浦賀港は奥が深いため兩岸の住民は渡船を江戸時代の頃から現在も日常的に利用している。昔をしのびながらの浦賀港横断。片道大人150円



⑦ 西叶神社／

源平時代、文覚上人が源氏の再興を祈願して、京の石清水八幡宮を勧請したと伝えられる古社で、応神天皇を祭神としている。西浦賀の総鎮守であり、浦賀廻船問屋衆の厚い信仰に守られてきた。



⑧ 東叶神社…勝海舟断食の地／

東叶神社も文覚上人が石清水八幡宮を勧請したと伝えられ、浦賀港を挟んで西叶神社と向かい合っている。勝海舟は咸臨丸でサンフランシスコに上陸する出航前、航海の成功を祈願し、境内にある井戸水をくみ、水ごりを済ませ、山頂で断食修行を行ったと伝えられている。



⑨ 浦賀ドック／

明治30年(1897)に日本で最初のドライドックとして誕生して以来、艦船やタンカーなど、1000隻以上の船を海に送りだし、「咸臨丸」の修理もこのドックで行なわれた。住友重機械工業浦賀工場として2003年まで操業していた。近代遺産として日本に2箇所しかない哀愁が漂うフランス積みレンガドック。